

文部科学省平成26年度「大学教育再生加速プログラム」
 テーマⅡ 学修成果の可視化 採択事業

リベラル・アーツ教育の アセスメント・モデル構築による 学修成果の向上と可視化

■事業の実施計画

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
IR体制の強化					
成績評価の平準化					
学科・専攻毎の具体的な ディプロマポリシー策定	■				
TOEFL ITP実施、分析、評価					
汎用的能力テスト・学修行動調査 実施、分析、評価					
コア科目の成績評価に ルーブリックを導入					
アセスメントポリシー策定と指標開発					
本学独自指標によるアセスメントの 実施、結果分析、検証					
アセスメント・モデルの再構築及び 恒常的な教育改善システムの確立					→



QUAECUNQUE SUNT VERA すべて真実なこと

本事業連絡先

東京女子大学

〒167-8585
 東京都杉並区善福寺2-6-1

■教育研究開発委員会 事務局 教育研究支援課
 TEL 03-5382-6451 E-mail ap@office.twcu.ac.jp

■自己点検・評価委員会 事務局 総務課
 TEL 03-5382-6340 E-mail ir-jikoten@office.twcu.ac.jp



2018年に創立100周年を迎えます。

東京女子大学

「学修成果の可視化」に採択されて

学長 小野祥子



東京女子大学は、キリスト教を基盤としたリベラル・アーツ教育の大学です。本学の教養教育は全人的人格教育であり、その目的のために多彩な教養教育プログラムを進化させてきました。女子大学としての特色ある教養教育により、「専門性をもつ教養人」を育成し、ほぼ100年にわたり、社会に有為な女性を輩出してまいりました。

この度、本学の新たな取り組み「リベラル・アーツ教育の学修成果の可視化」が、文部科学省平成26年度「大学教育再生加速プログラム」テーマⅡに採択されました。

教養教育の成果を測定する明確な「物差し」はまだありませんが、今回のプロジェクトにより東京女子大学の教育の成果を、在学生、卒業生、社会（とくに企業）などから多面的に検証し、その結果を「見える化」することを意図しています。

本学の教育の長所、短所を明確にして、さらなる教育内容の向上につなげ、本学の学士課程教育の質保証を実現することが最終目標です。さらに、このような学修成果の測定モデルが他大学の教育改善のモデルとなることも期待しております。

*大学教育再生加速プログラム(Acceleration Program for University Education Rebuilding : AP)とは、国として進めるべき大学教育改革を一層推進するため、教育再生実行会議等で示された新たな方向性に合致した先進的な取組を実施する大学を支援することを目的とする文部科学省の補助事業です。



本事業の取り組みと目標

「リベラル・アーツ教育の学修成果の可視化」の構築

本学の教養教育プログラムの人材養成の目的達成度を客観的に測定し、可視化する学修成果の可視化モデルを構築し、教育改善を恒常的に図るためのPDCAサイクルを機能させます。

目標達成のために、下記の取り組みを実施します。

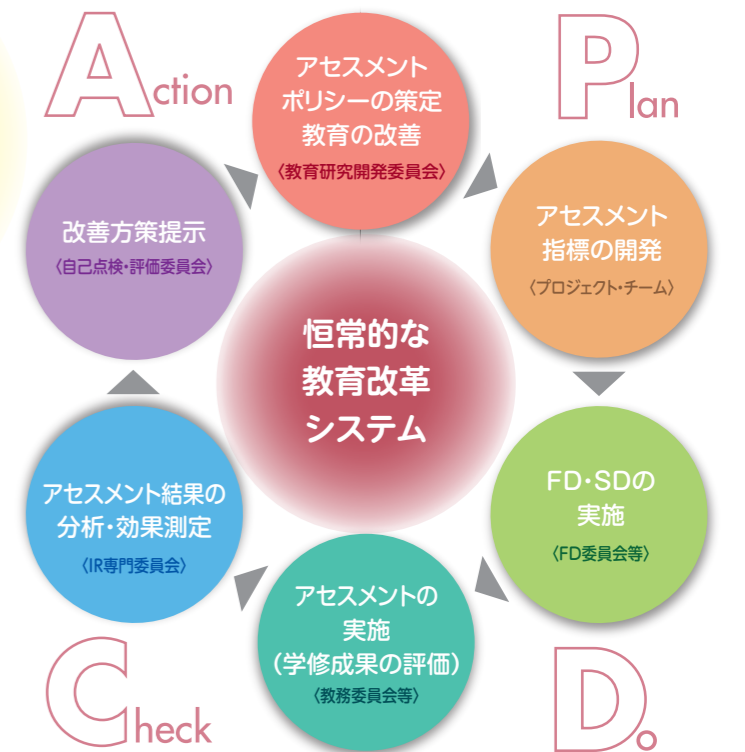
- IR体制の強化、全学的IRの実施
- コア科目の成績評価にルーブリック導入
- TOEFL ITP・汎用的能力テスト・学修行動調査の実施、結果分析、評価
- 卒業生・企業アンケート及びインタビュー調査の実施、結果分析、評価
- アセスメント・モデルの構築
- アセスメントの実施
- アセスメント結果の分析・効果測定
- 本学の教養教育の人材養成の目的達成度を可視化
- 教育の改善を図る恒常的PDCAサイクル構築
- FD・SD研修の実施

新しいアセスメントモデル	アセスメントに用いる各評価軸の指標		
	直接的アセスメント指標	間接的アセスメント指標	
	客観的に測定可能な指標	自己報告型の指標	外部評価指標
専門知識	・GPA ・修得単位数 ・TOEFL ITPの得点	・学修行動調査(本学独自) ・学修行動調査(回答者平均値との比較可能なもの)	・卒業生アンケート(現行アンケートを拡充)
汎用的能力	・TOEFL ITPの得点 ・外部テスト(受験者平均値との比較可能なもの)の得点 ・CLA等を参考とする独自指標	・学修行動調査(本学独自) ・学修行動調査(回答者平均値との比較可能なもの)	・卒業生アンケート(現行アンケートを拡充)・インタビュー ・雇用者アンケート・インタビュー
態度・志向	・外部テスト(受験者平均値との比較可能なもの)の得点 ・PPI等を参考とする独自指標	・学修行動調査(本学独自) ・学修行動調査(回答者平均値との比較可能なもの)	・卒業生アンケート(現行アンケートを拡充)・インタビュー ・雇用者アンケート・インタビュー

CLA:米国CAEによるCollegiate Learning Assessment (大学生学習調査)
PPI:米国ETSによるPersonal Potential Index



教職員が一体となった大学全体の取り組み



長所を伸ばし短所を克服する学習計画を立て、主体的な学びを継続する

●自分の現状を知る

- ・学修行動調査回答(間接的指標)
- ・TOEFL ITP、汎用的能力テスト受験(直接的指標)

〈自ら学ぶための仕組〉

- ・カリキュラム・マップ
- ・授業科目のナンバリング
- ・専攻ごとのディプロマ・ポリシー
- ・履修モデル
- ・シラバス
- ・全学共通カリキュラムハンドブック

●知識の幅を広げる

- ・学修行動調査回答(間接的指標)
- ・TOEFL ITP受験(直接的指標)(英語力の伸びをチェック)

〈授業外学修支援の豊かなリソース〉

- ・図書館における学習支援プログラム
- ・キャリア・イングリッシュ・アイランド
- ・視聴覚教育センター外国語科目学習支援
- ・情報処理教室アシスタントによる学習支援 他

●深い理解を得る

- ・学修行動調査回答(間接的指標)
- ・汎用的能力テスト受験(直接的指標)(汎用的能力の伸びをチェック)

●専門性をもつ教養人としての基礎を獲得する

- ・卒業論文、卒業研究(東京女子大学の学修の集大成)
- ・学修行動調査回答(間接的指標)